

令和元年度 幼児教育学科

# 自己点検・評価報告書

令和 2 年 3 月

富山短期大学 幼児教育学科



番号	点検項目名	認証評価(第三評価期間)			記載の有無(○×)	記載箇所(各報告書での記載ページの最初を記入) ■は記載すべき部署								
		基準	テーマ	区分		教務部	学生部	地域連携センター	入試・広報センター	事務部	食栄	幼教	経情	福祉
25	教員組織	Ⅲ 教育資源と財的資源	A 人的資源	1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	×									
26	教育研究活動			2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。	○							12		
27	事務組織			3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	×									
28	人事・労務管理			4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。	×									
29	物的資源の整備、活用		B 物的資源	1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。	×									
30	施設設備の維持管理			2 施設設備の維持管理を適切に行っている。	×									
31	技術的資源		C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	×									
32	財的資源			D 財的資源	1 財的資源を適切に管理している。	×								
33	財政上の安定確保		2 日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。		×									
34	理事会等の管理体制		Ⅳ リーダーシップとガバナンス	A 理事長のリーダーシップ	1 理事会等の学校法人の管理体制が確立している。	×								
35	教授会等の教学体制	B 学長のリーダーシップ			1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学体制が確立している。	×								
36	監事の業務			C ガバナンス	1 監事は寄付行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。	×								
37	評議員会の開催	2 評議員会は寄付行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営している。			×									
38	情報の公表・公開	3 短期大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。			×									

# 令和元年度 幼児教育学科 自己点検報告書

## 1. 建学の精神 (他部局で記載のため省略)

## 2. 地域・社会貢献

### (1) 現状

①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。

- ・幼稚園教諭特例講座や幼稚園教諭免許状更新講習を開講している。
- ・幼児教育センターの活動として幼児教育研究会を毎年 1 回開催し、県内保育士等の実践力向上に貢献している。また、広報誌「越の子」に講演記録等を記載し、関係機関に配布している。
- ・多くの専任教員が、県内市町村主催の保育研修会等の講師として協力している。
- ・地域連携センターと連携して、南砺市で「トミタン幼教がやってきた」の出前講座を実施した。

(詳細は富山短期大学地域連携活動年報に記載)

②教員と学生が協力してオレンジリボン運動を行うなど、積極的に地域社会に貢献している。(活動記録は、総合演習記録集に掲載)

### (2) 課題

- ①幼稚園教諭免許状更新講習の希望が多い状況が続いており、今後も継続するものと予想される。希望者の要望に応えられるようにしていくことが求められている。
- ②幼児教育研究会では、変化していく現場保育者の要望を的確に把握し、テーマに反映していくことが求められている。
- ③ゼミでの調査研究成果や、大学コンソーシアム富山の活動成果を蓄積する仕組みを考える必要がある。

### (3) 次年度の実施計画

- ①幼稚園教諭免許状更新講習については、本年度と同程度に開催を継続する。実施時期については、参加しやすい時期を調査して決定する。
- ②幼児教育研究会では、近年問い合わせの多い、インクルーシブ保育に関わる内容で、7月上旬に実施する。
- ③ゼミでの調査研究成果を蓄積する仕組みを考える。

## 3. 教育目標

### (1) 現状

- ①学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。
- ②学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。
- ③毎年 5 月前後に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに保育

現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。（就職支援センターで訪問記録を集約して保管）

- ④外部評価委員会を通して、地域・社会の要請に応じているか点検している。（外部評価委員会記録として保管）

## (2) 課題

- ①教育目的及び目標の中に、明解でない表現がみられる。誰もが共通のイメージをもつことができ、成果を検証できるような表現に変える必要がある。
- ②教育目的及び目標に関し、ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立する。
- ③教育目的及び目標に関し、人材養成の目的に中を含めて学生が認識できるように努める。

## (3) 次年度の実施計画

- ①入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。
- ②学科会議で時間を確保して、教育目的及び目標の表現の明確化を図る。

## 4. 学習成果

### (1) 現状

- ①学習成果を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。
- ②学習成果を、「学生生活のしおり」やweb シラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。
- ③Web シラバスシステムを導入して、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。  
(Web シラバスに記載)
- ④また、Web シラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。
- ⑤学期末ごとに、学生に対して「履修カルテ」を記入させ、学習成果についての振り返りをさせるとともに、教員もコメントを記入して学習成果を評価している。

### (2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ②Web シラバスシステムを導入したことで、情報量が多くなり分析に時間を要するようになった。
- ③学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努める必要がある。
- ④学習成果の獲得を評価・判定する仕組みを定める。さらには、評価・判定した結果

をフィードバックする仕組みを定めることが必要である。

### (3) 次年度の実施計画

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。
- ②Web シラバスシステムを短時間で有効活用できる方策を検討する。
- ③学習成果が、定量的または定性的な根拠に基づき評価できるものとなるよう検討する。

## 5. 三つの方針

### (1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。
- ②毎年度末に学科会議で議論し、見直しを図っている。
- ③3つの方針を踏まえた教育的活動を行っており、各年度の前期末及び後期末に、「授業アンケート」（教務部で管理）や「履修カルテ」（学科事務室で管理）の記入を学生に求めて、「3つの方針」の達成状況を確認している。

### (2) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。
- ②保育・幼児教育をめぐる状況は、目まぐるしく変化している。その変化に目を光らせて、三つの方針を常に見直していくことが必要である。
- ③教育課程の全授業科目に学習成果が反映されているかどうか精査する仕組みを構築する。
- ④3つの方針の中に、達成状況を把握・評価しにくい表現がまだ見られる。

### (3) 今年度の実施計画

- ①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。
- ②保育・幼児教育をめぐる状況に目を光らせて、変更の必要性があれば三つの方針の見直しを図る。
- ③3つの方針の表現を、達成状況が把握・評価しやすいものになるよう変更を検討する。

## 6. 内部質保証

### (1) 現状

- ①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。
- ②Web シラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。
- ③毎年度末に、学科の活動を学科会議で総括して「自己点検・評価報告書」を作成し

ている。

- ④外部評価委員会の中で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。（事務部で外部評価委員会資料を保管）
- ⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記しており、積極的に改革改善に活用している。

## (2) 課題

- ①時間に追われて毎時の授業アンケートができないこともある。日常的な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。
- ②今回から、自己点検・評価報告書の形式を変えることになった。点検項目をしばり、記載内容の充実を図ることが課題である。
- ③建学の精神、教育目的・目標、学習成果、三つの方針、内部質保証の項目に関しては、「内部質保証ルーブリック」で、さらに上のレベルを目指す。
- ④全専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みを構築する。

## (3) 次年度の実施計画

- ①日常的な自己点検・評価の方法を学ぶ機会をつくる。
- ②年度末に今年度の振り返りを行い、より充実した自己点検・評価報告書作成に反映していく。

## 7. 教育の質

### (1) 現状

- ①Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学習成果を可視化し査定する手法を取り入れている。
- ②毎年、成績の分布や授業アンケートの結果を分析して、学科ごとに「教育課程改善レポート」を作成し、査定の手法を点検するとともに、教育の質向上に活用している。（教育課程改善レポートは教務部で集約保管）
- ③FD 研修会で授業改善報告会を実施したり、授業改善事例集の作成を通して、教育の向上・充実に努めている。
- ④教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。（教務部で管理）

### (2) 課題

- ①授業アンケート結果をみると、学習成果に関わる自己評価・満足度が低い科目もある。アンケート結果を踏まえての授業改善が望まれる。
- ②教育課程が今年度から変更となった。複数教員による担当科目の共通理解がまだ不十分である。

### (3) 次年度の実施計画

- ①各教員に授業アンケートの結果を踏まえての具体的な改善策を求め、授業アンケートでの満足度の向上をめざす。
- ②「子どもと遊び」など複数教員による新科目の共通理解を図る。

## 8. 学位授与方針

### (1) 現状

- ①学科の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- ②学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学習成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。(学生生活のしおりに記載)
- ③学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学評価基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考えます。
- ④毎年 5 月前後に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、学科の卒業認定・学位授与の方針が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。(就職支援センターで訪問記録を集約して保管)
- ⑤教育実習及び保育実習終了後に、定期的の実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、学位授与方針に反映している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、NO1)

### (2) 課題

- ①2年後期末の「履修カルテ」を確認すると、自己評価の低い学生が存在する。

### (3) 次年度の実施計画

- ①「履修カルテ」で自己評価の低い学生を早期に発見して、個別の指導を強化する。
- ②「履修カルテ」記入の機会を利用して、学科の卒業認定・学位授与の方針の理解を深める工夫をする。

## 9. 教育課程編成・実施の方針

### (1) 現状

- ①学科の教育課程編成・実施の方針を明確に示している。(学生生活のしおりに記載)
- ②学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- ③学科の教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を体系的に編成している。学習成果に対応した授業科目を編成し、細則を作成して単位数の上限を定める工夫をし、成績評価は短期大学設置基準等にのっとり適切に判定している。シラバスには必要な項目をすべて網羅し、学修成果別評価基準(ループブック)の記載も整備している。(Web シラバスに記載)
- ④学科の教員は、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- ⑤教育課程の見直しについては、学科会議で定期的に行うとともに、年度末に「2年生

と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生からも意見を聴取している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N02)

- ⑥専任教員以外の授業担当者に対しては、隔年で「教育課程懇談会」を設けて意見を聴取し、教育課程の改善に反映している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N03)
- ⑦各実習の取り組み状況や課題を各担当で総括し、改善のための意見交換をしている。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N04)
- ⑧指定保育士養成施設指定基準にのっとり、「指定保育士養成施設自己点検表」を作成し、必要な点検を適切に実施している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N05)

## (2) 課題

- ①教育課程が今年度から大幅に変更となった。教員間の共通理解を図る必要がある。
- ②保育実践力の向上が求められている。その方策として、教育実習指導と保育実習指導の連携を密にすることが考えられる。

## (3) 次年度の実施計画

- ①週1回の学科会議などで、教育課程に対する共通理解をこまめに図る。
- ②今年度内に教育実習指導と保育実習指導担当者で内容を調整し、より効果的な指導を実施する。

# 10. 幅広く深い教養

## (1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。
- ②「教育課程編成図」を作成して、教養科目と専門科目の関連性を明確にしている。
- ③幼児教育学科独自の初年次教養教育として「基礎演習」を開講している。幼児教育を学び研究する際に必要となる6つの基礎力を身に着けることを目指しており、専門教育との接続を図っている。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N06)  
また、「教育課程編成図」においても教養科目と専門科目の関連を明確にしている。
- ④教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

## (2) 課題

- ①教養科目である「自然と人間」「国際情勢」「国語表現」は、いずれも非常勤講師が担当している。連絡が取りにくいために学生の学修状況がわからない部分が多い。「授業アンケート」の結果をみると、学生の学習成果に関する自己評価・満足度も低い。

### (3) 次年度の実施計画

- ① 本学の特徴的な教養科目である「現代社会と人間」の受講者が、本年度から増加した。  
来年度も、本年度以上の履修者数となるよう学生への働きかけを工夫する。
- ② 教養科目担当の非常勤講師との連絡を図り、学生の満足度も上がるように指導改善を依頼する。

## 11. 職業教育

### (1) 現状

- ① 短期大学設置基準にのっとり、「幼稚園教諭二種免許状」の取得に必要な教職課程及び「保育士養成課程」を実施し、職業教育に取り組んでいる。（「学生生活のしおり」に教育課程表掲載）
- ② 「教育課程編成図」を作成して教養科目と専門科目の関連を明確にし、職業教育の実施体制を明確にしている。
- ③ Web シラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。
- ④ 「保育実習指導」「教育実習指導」等の授業科目において、学外実習に対する意識を高め、スキルを向上させるための指導を行っている。（幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N07）
- ⑤ 教育実習及び保育実習終了後に、定期的に実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、保育者に必要な資質能力についての意見を聴取し、授業の見直しを図っている。（幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N01）
- ⑥ 夏季休業中の自主実習を強く奨励して取り組ませている。（幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N08）

### (2) 課題

- ① 専門職就職率はほぼ100パーセントに近いが、何人かは一般職に就職する。
- ② 2年後期に就職が近づくと、専門職への就職に不安を持つ学生が増える。
- ③ 自主実習の参加率は、1年生は高いが、2年生は低い。2年生への指導を見直す必要がある。

### (3) 次年度の実施計画

- ① 就職支援係と担任とゼミ指導者の、及び就職支援センターとの連携を密にして、不安を抱える学生への指導を充実させる。
- ② 専門職に就職することへの不安をやわらげ、専門職への就職率を今年度並みに維持することを目標として指導に当たる。
- ③ 2年生の自主実習参加率が今年度以上となるよう指導を工夫する。

## 12. 入学者受入れ方針

### (1) 現状

- ① 入学者受入れ方針を明確に示している。（学生生活のしおりに記載）

- ②入学者受入れ方針は学習成果に対応しており、学生募集要項に明確に示している。
- ③その他のチェックポイントは、入試広報センターが中心となって適切に実施している。（詳細は入試広報センターで記載のため省略）

(2) 課題

- ①入学者の中にはアドミッションポリシーを理解していない者がおり、入学早々に退学する者がいる。

(3) 次年度の実施計画

- ①オープンキャンパスや入試説明会で、受験生への周知を図る。
- ②学生に協力を得て記載内容を点検し、必要があれば見直しを図る。

### 13. 明確な学習成果

(1) 現状

- ①学科の学習成果は明確に示している。Web シラバスで各科目において学修成果別評価基準（ルーブリック）を記載して、学習成果の具体化及び測定可能化を図っている。（Web シラバスに記載）

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。

(3) 次年度の実施計画

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。

### 14. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ①教務部で Web シラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。（詳細は教務部で記載のため省略）
- ②2年間の学習成果を集約したものとして「総合演習記録集」を作成し、関係機関に配布している。
- ③学生に対して、学期ごとに「履修カルテ」を記入させ、学生自身にも学習成果を確認させている。

(2) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(3) 今年度の実施計画

- ①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。

## 15. 学習成果を可視化する指標

### (1) 現状

- ①就職支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。
- ②教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。

### (2) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケート項目の見直しが必要である。

### (3) 今年度の実施計画

- ①教務部と協議してアンケート項目を見直し、回答率が上がる方策を考える。

## 16. 卒業後評価への取り組み

### (1) 現状

- ①学科教員が毎年 5 月前後に卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学習成果の点検に活用している。（訪問記録は就職支援センターで集約保管）

### (2) 課題

- ①訪問時期が早いので、評価としては不十分なきもある。しかし、そのあとに保育実習が始まることもあり、その前には挨拶しておきたいという事情がある。

### (3) 今年度の実施計画

- ①保育実習指導で訪問する際に、その園に卒業生がいるかどうか確認したうえで訪問し、該当者がいる場合には評価を聴取するようにし、学科会議で情報交換を図る。

## 17. 教育資源の有効活用

### (1) 現状

- ①教員は学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。Web シラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。（Web シラバスに記載）
- ②「履修カルテ」の記入を通じても、学生の学習状況を把握して支援を行っている（幼児教育学科の事務室に保管）
- ③教室内のプロジェクター設備を有効活用して、授業の改善に取り組んでいる。
- ④学内のコンピューターを学生の学習向上のために活用している。（総合演習記録集など作成）
- ⑤年度末に「2 年生と教員による教育課程等懇談会」を開催して、学生からも施設設備に対する意見・要望を聴取している。（幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、NO2）

## (2) 課題

- ①付属図書館の図書貸出状況がまだまだ少ない。
- ②学内のコンピューター設置状況が学生数に対して少ない。

## (3) 今年度の実施計画

- ①付属図書館の図書貸出状況が今年度よりも多くなるよう、授業等を工夫する。
- ②パソコン環境の整備について、事務当局とも連携して対策を考える。

## 18. 学習支援

### (1) 現状

- ①推薦試験合格者に対して入学前セミナーを実施し、入学前までの心構えを指導している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N09)
- ②入学者に対しては、学習、学生生活のためのオリエンテーションを実施している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N010)  
また、5月下旬頃に1泊2日の学外研修を実施し、1年生と2年生の交流を図ることで、学生生活にスムーズに入れるように工夫している。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N011)
- ③教養科目の「基礎演習」を通じて、学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法をガイダンスしている。
- ④学習成果の獲得に向けて「学生生活のしおり」などを作成し配布している。また、Web シラバスシステムを利用して、学生が自分の学習成果をレーダーチャート等で可視化して分かるようにして学習支援の整備を図っている。
- ⑤学習成果の獲得に向けて、各教員で小テスト等の工夫をしている。それでもまだ基礎学力が不足する学生に対しては、各授業担当者が適宜指導を行っている。
- ⑥学習上の悩みなどを持つ学生に対しては、担任が健康支援センターと連携して支援する体制をとっている。
- ⑦Web シラバスシステムを利用することで、学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。(Web シラバスに記載)

### (2) 課題

- ①学外研修に参加したくない学生が現れてきた。あり方を見直す必要がある。
- ②教室に入れないなど、学習上の悩みを持つ学生が現れてきた。支援の在り方を検討する必要がある。

### (3) 今年度の実施計画

- ①担任だけでなく、授業担当者や「基礎演習」ゼミ担当者間で学習に困難を感じる学生の早期発見に努め、現れた場合には早期対応を図る。

## 19. 生活支援

### (1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。

(詳細は学生部で記載のため省略)

(2) 課題

- ①カウンセリングを必要とする学生が増えてきている。
- ②母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。

(3) 今年度の実施計画

- ①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。
- ②学科学生のボランティア活動の回数を今年度よりも増やすことを目標とし、学生に働きかける。

## 20. 進路支援

(1) 現状

- ①就職支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。  
(詳細は就職支援センターで記載のため省略)
- ②学科内では、就職支援係を決めて「進路指導計画」を作成し、きめ細かい就職試験対策も行っている。(幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N012)
- ③今年度よりゼミ指導の教員も面接や作文指導を担うようになって、よりきめ細かい指導ができるようになった。
- ④進学に対する支援も丁寧に行っている。今年は1名の編入学希望者が合格した。

(2) 課題

- ①学生の学力が低下傾向にあり、一層きめ細かい指導が必要になってきている。
- ②専門職に就職することに不安を感じる学生が増える傾向にある。

(3) 今年度の実施計画

- ①就職支援係と担任とゼミ指導者の連携を密にして、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。
- ②専門職に就職することへの不安をやわらげ、専門職への就職率を今年度並みに維持することを目標として指導に当たる。

## 21. 健康支援

(1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の健康支援を積極的に行っている。  
(詳細は学生部で記載のため省略)

(2) 課題

- ①カウンセリングを必要とする学生が増えてきている。
- ②学生の中には、教室に入れないときがあると訴える者もいる。

(3) 今年度の実施計画

- ①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。
- ②座席配置等でも学生の要望を聞いて配慮する。

(22～25の点検項目は他部署で記載のため省略)

## 26. 教育研究活動

(1) 現状

- ①専任教員は、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。その実績は、幼児教育学科「自己点検・評価ファイル」に保管、N013)
- ②他のチェックポイントについては、教務部を中心として十分に取り組んでいる。  
(詳細は教務部で記載のため省略)

(2) 課題

- ①学生への指導に要する時間が多くなり、研究活動にかける時間が少ない。
- ②会議等も増大する傾向にあり、教育研究活動にかける時間が確保できないことがある。
- ③オープンキャンパスや入試説明会を土日に開催するために、学会参加が難しくなっている。

(3) 今年度の実施計画

- ①本年度から設置される健康支援センター（仮称）との連携を図ることで、支援を必要とする学生への指導の負担軽減を図る。
- ②教育研究活動の時間を確保するため、会議の時間短縮を目指し運営方法を見直す。

(27～38の点検項目は他部署で記載のため省略)